

ケネディ行政大学院
ケースプログラム

ハリケーン・カトリーナ (A) :

ニューオーリンズでの「ビッグワン (大災害)」の備え

Copyright©2006 by the President and Fellows of Harvard College. Translated into Japanese in full with permission of the Case Program, John F. Kennedy School of Government, Harvard University, by Dr. Mitsuyoshi Urashima, Jikei University School of Medicine, Tokyo, Japan, in 2006.

本ケネディ行政大学院ケースの著作権はハーバード大学総長およびその仲間に帰属するが、東京慈恵会医科大学の浦島充佳が許可を得て **2006** 年に日本語に翻訳した。

C15-06-1843.0 脚注

¹ **Col. Jeff Smith** ルイジアナ州国土安全保障・災害準備局(Louisiana Office of Homeland Security and Emergency Preparedness)、「ハリケーン・カトリーナの準備と対応を調査する下院特別委員会」(以下、「下院特別委員会」と称する)での証言、2005年12月14日。

² *The Times-Picayune* 紙 (ニューオーリンズ)、ウェブ版、2005年8月27日

本ケースは *Esther Scott* により作成され、*Taubman Center for State and Local Government* の常任ディレクターである *Arnold Howitt* に提出されたものであり、ハーバード大学ケネディ行政大学院(*John F. Kennedy School of Government*)での使用を目的としている。本ケースの資金は *National Preparedness Leadership Initiative* から提供された。(0606)

Copyright © 2006 the President and Fellows of Harvard College。本出版物のいかなる部分も当該ケースプログラムの文書による許可なしに、再生、改訂、翻訳、検索システムへの保存、表計算ソフトへの使用、あるいはいかなる形態または方法(電子的・機械的・複製・録音その他)で転送することも禁ずる。注文および著作権許可の情報については、当校ホームページ www.ksgcase.harvard.edu にアクセスするか、**Case Program, John F. Kennedy School of Government, Harvard University, 79 John F. Kennedy Street, Cambridge, MA 02138** まで文書で要請すること。

³ **Nicole Gaouette, Alan C. Miller, Mark Mazzetti, Doyle McManus, Josh Meyer, Kevin Sack** 「カトリーナの余波：その対策」*Los Angeles Times* 2005年9月11日 p.A1

⁴ ルイジアナは **64** の行政区に分割されており、これらは大まかに言って他州の郡に相当する。堤防は一般的に土の土手であり、防水壁はコンクリートと鋼製の大型スラブで、場合によっては堤防の上にある。[**John Cloud**, 「ニューオーリンズをモップでふき取る」*Time* 2005年9月19日 p.54]

⁵ **John McQuaid & Mark Schleifstein** 「危険な道」*The Times-Picayune* 「流失」5回シリーズの第1回、2002年6月23-27日。ネットワーク上 www.nola.com/hurricane/?/washingaway。同文書はまた、ミシシッピ川に沿った堤防は1927年の大洪水後に **25** フィート超にかき上げされ、ポンチャートレイン湖の堤防よりはるかに高くなったと指摘している。

6 同上

7 陸軍工兵部隊は通常は洪水防御用インフラの建設を担当し、地方政府がその維持管理に当る。ルイジアナの場合、地方の堤防理事会(委員は知事や行政区政府により任命される)が上下水道理事会と一緒に、当該の洪水防御システムの運営・整備を担当していた。但しミシシッピ川の堤防については、陸軍工兵部隊が運営・整備を行っていた。

8 **Congressional Research Service** 「ニューオーリンズの堤防と防水壁：ハリケーン被害予防」2005年9月6日 p.4。

9 堤防決壊が生じる可能性がある一方で、ルイジアナ州立大学のエンジニアは2002年に *The Times-Picayune* に対してこう述べている。「それは予想されていないことです。」

10 **Madhu Beriwal** 「惨事への備え：ハリケーンパム演習」、上院国土安全保障・政府問題委員会（以後上院国土安全保障委員会と称する）での発言、2006年1月24日 p.2。ハリケーンパムは最初の演習ではなかった。2002年にルイジアナ州立大学の科学者が、ルイジアナと連邦機関のため、ニューオーリンズを直撃する強大暴風雨への当局の対策を検証する目的で、仮想上の「ハリケーンゼブラ」を作った。ゼブラプロジェクトはハリケーンパムより小規模で簡略であり、6時間のみで終了した。[**J. Taylor Rushing** 「ハリケーン演習により州の準備を検証する」 *The Advocate Online* 2000年7月14日。]

11 **Scott Shane & Eric Lipton** 「暴風雨と危機：連邦政府の対応」 *The New York Times* 2005年9月2日 p.A1。

12 **McQuaid & Schleifstein** 「流失」中の「取り残されて」、2002年6月23~27日

13 更に下院特別委員会の報告によると、同市は地域の教会と連携して、避難時に運転者と乗車する人の組合せを助ける「ブラザーズ・キーパー(**Brother's Keeper**)」プログラムを設立した。

14 **Susan Glasser & Michael Grunwald** 「定常的な積み重ねが市を混乱に導く」 *The Washington Post* 2005年9月11日 p.A1

15 「ハリケーン・カトリーナに対する連邦政府の対応：学び取った教訓」からの引用。**George W. Bush** 大統領への報告書（以後ホワイトハウス・レポートと称する）、2006年2月23日 第2章 p.6

16 「指導力の欠如」、は「ハリケーン・カトリーナへの防御と対応策を調査するための超党派特別委員会 (**Select Bipartisan Committee to Investigate the Preparation for and Response to Hurricane Katrina**)」の最終報告書(以後下院特別委員会報告書と称する)、**2006年2月15日 p.31**

委員会報告書によると **EMAC** は、**1992**年の強大ハリケーン・アンドリューに対する連邦および州政府の対応を不満として、フロリダ州とその他**16**州により地域協定を足場として作られたものである。

17 ホワイトハウス・レポート、第**2**章 **p.8**

18 同上 第**2**章 **p.6**

19 **David Kirkpatrick & Scott Shane**、「前 **FEMA** 長官、そのフラストレーションと混乱を語る」 *The New York Times*、**2005**年**9**月**14**日 **p.A1**

20 **DHS** は **2003**年**3**月**1**日に正式に開始され、**22**の部門・機関・局のオペレーションの管理と約**18**万人の従業員を擁することとされた。[ホワイトハウス・レポート、第**2**章 **p.2**]

21 ホワイトハウス・レポート、第**2**章 **p.2** レポートの記載するところによれば、**NIMS**とは、「連邦・州・地方など全ての対応者が対策活動を履行・調整するために使用すべき標準化された事案管理プロトコルおよび手順」である。その「中心的構成部分」は、「緊急指令システム(**Incident Command System: ICS**)」であり、同システムは個々の対応者と各機関の活動を調整する。**ICS**の下、「指令機能」は「最低レベルの対応で設置され、その他の機関や管轄区が増えるごとに、それらを包括してゆく」ものと想定された。

22 **NRP**はその一部で、**DHS**長官が宣言の発令に責任を持つとしながら、他の箇所においては、スタフォード条例に基づき大統領が宣言する全ての緊急事態および災害は、自動的に国家重大事案と見なされると述べた。

23 「連邦対応責任者」は「連邦政府調整官 (**federal coordinating officer: FCO**)」と混同してはならない。後者が **FEMA**により任命され、スタフォード条例に基づき事案を管理する者である。その主な役割が調整である **PFO**と異なり、**FCO**は連邦政府の対策オペレーションを担当し、資金を割り当てる権限を持つとされた。[下院特別委員会報告書 **p.189**]

24 ホワイトハウス・レポートによれば、「統一された指揮」とは事案指揮システムの「適

用」であり、複数の機関または管轄区が関与する場合に設立されるとした。NRP の下に、「複数の政府レベルからの上級職員」が「単一の場所に集合し、共通目的一式と単一の事案計画を確立することが」求められた。

25 ホワイトハウス・レポート、第 2 章 p.7

26 Michael Grunwald & Susan Glasser 「Brown の縄張りは FEMA の力によって奪われた」 *The Washington Post* 2005 年 12 月 23 日 p.A1。Brown は弁護士の教育を受け、初期には FEMA の総合弁護士の、その後は副長官の職にあった。以前はオクラホマ州の市・州政府に奉職し、最近では「国際アラブ馬協会(International Arabian Horse Association)」のコミッショナーであった。

27 同上

28 同上

29 Mark Thompson 「FEMA とその長である Michael Brown は、最大の試験に何故失敗したのか」 *Times* 2005 年 9 月 19 日 p.39

30 Grunwald & Glasser 2005 年 12 月 23 日 下院特別委員会の報告書によれば、DHS の職員達は、この主張に「きっぱりと」異議を唱えた。

31 Grunwald & Glasser 2005 年 12 月 23 日 下院特別委員会報告書 p.154 この件に関して全国危機管理協会(National Emergency Management Association: NEMA)は、FEMA の味方につき、その議論の中で、DHS が他の災害をないがしろにしてテロへの供えを強調しているとした。

32 下院特別委員会報告書 p.152 および p.157

33 Grunwald & Glasser 2005 年 12 月 23 日

34 ホワイトハウス・レポート 第 3 章 p.2

35 Jeff Smith による証言 2005 年 12 月 14 日

36 *The Times-Picayune* ウェブ版 2005 年 8 月 27 日

- 37 **Peter Applebome, Christopher Drew, Jere Longman & Andrew Revkin** 「脆いバランスは直ぐに壊れ、破壊された街が待っている」 *The New York Times* 2005年9月4日 p.25
- 38 下院特別委員会報告書 p.114
- 39 **Applebome** 他 2005年9月4日
- 40 **Alan Berube & Steven Raphael** 「ニューオーリンズにおける車へのアクセス」 **The Brookings Institution** 2005年9月15日。2000年のセンサスデータによれば、ニューオーリンズの全人口はおよそ **485,000** 人であった。
- 41 **The Times-Picayune** ウェブ版 2005年8月27日 スーパードームは州の緊急時対応計画において、特別なニーズのシェルターとして指定された。
- 42 「国はまだ準備ができていない」 上院国土安全保障・政府問題委員会 (**Senate Committee on Homeland Security and Governmental Affairs**) の報告書 2006年5月 第21章 p.5, p.9。同報告書の記述によると、ニューオーリンズ自身には捜索・救助作業に利する資産は殆どなく、市警察は5隻の船を持つのみ、消防は全く所有していなかった。
- 43 下院特別委員会報告書 p.67。州兵のローカルランクは通常よりも弱く、**3,200** 名がイラクに展開されていた。 [**Scott Shane & Thom Shanker** 「暴風が直撃した時、州兵も水浸しだった」 *The New York Times* 2005年9月28日 p.A1]
- 44 **Major General Bennett C. Landreneau** 上院国土安全保障委員会での陳述。2006年2月9日
- 45 **Jan Moller** 「改正された逆方向がスムーズに開始」 *The Times-Picayune* 2005年8月28日 p.1
- 46 **Michael D. Brown** 下院特別委員会での陳述 2005年9月27日
- 47 **William Lokey** 下院特別委員会での証言 2005年12月14日
- 48 下院特別委員会報告書 p.59。後に上院国土安全保障委員会が出した報告書によれば、

FEMAはルイジアナ自体には僅か**3**つの捜索・救助チームを事前配備していただけだった。全国災害医療システム（**NDMS**）は、災害の救助にあたるチームに配置するため、医療分野のボランティアに協力を求めた。元々は保険社会福祉省の一部であった**NDMS**は、国土安全保障省の創設により**FEMA**の職務に移動されていた。

49 下院特別委員会報告書 p.67

50 下院特別委員会報告書 p.66 Landreneau 2006年2月9日

51 下院特別委員会報告書 p. 39 – 40。但し**FEMA**は、通常は州の要請がある場合に限って連邦部隊の要請を行った。

52 下院特別委員会報告書からの引用 p.145

53 同上 p.66

54 同上 p.68~69。下院特別委員会報告書によれば、上陸から**12**時間以内に湾岸警備隊は「**29**機のヘリコプター、**8**機の固定翼機、**24**基のカッターを、救助オペレーションを支援するため同地域に差し向けた。」

55 Moller 2005年8月28日

56 ホワイトハウス・レポートからの引用。第3章 p.6。2002年に**Mayfield**はルイジアナ州の別の知事に連絡し、メキシコ湾のハリケーン・リリーについて警告したことがあった。そのハリケーンはカテゴリー**4**の暴風雨として、ルイジアナ沿岸に向かっていたが、劇的に弱まりカテゴリー**1**で上陸した。

57 市長の**Ray Nagin**による下院特別委員会の証言、2005年12月14日。証言で彼は、**Blanco**の強い勧めにより彼の方から**Mayfield**に連絡したと述べた。

58 **Bruce Nolan** 「カトリーナが狙いを定めている」 *The Times-Picayune* 2005年8月28日 p.1

59 **The Times-Picayune** ウェブ版 2005年8月28日

60 ホワイトハウス・レポートによれば、15 の全ての行政区は何らかの形の避難命令を発令した。下院特別委員会報告書によると、ミシシッピ州では **Barbour** 知事は地方の権限を「侵害」しないことを選び、被災地域の 5 つの郡は夫々の郡内の特定の地域およびまたはトレーラハウスに住む人々に対して、強制避難命令を出した。

61 下院特別委員会報告書 p.110

62 **Sam Coates & Dan Eggen** 「ニューオーリンズでの絶望的なエクソダス」 *The Washington Post* 2005 年 9 月 1 日 p.A1。Blanco は制約条件を持っていた人々にどんな機会が与えられたかは示さなかった。

63 下院特別委員会報告書 p.114, p.110

64 同上 p.117

65 **Marty J. Bahamonde** 上院国土安全保障委員会での証言 2005 年 10 月 20 日

66 *The New York Times* 紙の報告によると、月曜日早朝までには、アラバマ/ミシシッピ/ルイジアナ/フロリダ/テキサスの 240 のシェルターには 52,000 人が収容された。最大の人数はスーパードームであった。[**Joseph Treaster & Kate Zernike** 「ハリケーンがメキシコ湾沿岸を攻撃」 *The New York Times* 2005 年 8 月 29 日 p.A1]

67 下院特別委員会報告書 p.278。同報告書は、「同規模の人口を持つ」隣接の **Jefferson** 行政区は、同管区内に 45,000 人の特別ニーズを持つ患者を確認している。同報告書が指摘するように、「特別なニーズ」の定義は州や行政区ごとに異なっていた。ニューオーリンズでは、「断続的もしくは不定期な援助」を必要とする慢性疾患を持つ個人で、その治療や薬剤の冷蔵のために電気を要する者は、特別ニーズシェルターへの入所資格があると見なされた。急性疾患の人は対象とされなかった。同市の保健所の所長によれば、ニューオーリンズには避難目的のための特別ニーズ住民のリストはなかった。

68 同上 p.279

69 ニューオーリンズ市保健所、上院国土安全保障委員会への回答 2006 年 1 月 31 日

70 下院特別委員会報告書 p.268

71 **Joseph A. Donchess**、上院国土安全保障委員会に対して用意された供述、**2006年1月31日**。**Donchess**によれば、**21**の老人ホームが暴風雨前に避難した。

72 **The Times-picayune** ウェブ版、**2005年8月28日**

73 **Margaret Ebrahim & John Solomon**、**Associated Press** 社、「ビデオは示す：カトリーナ襲来前にブッシュは警告していた」**Dallas Morning News** **2006年3月2日**。**Brown**はこれらのアセットが何を指すのかは具体的に説明しなかった。同日遅くに、彼は **Baton Rouge** に飛び、州の **EOC** 職員と合流した。

74 同上

75 下院特別委員会報告書 p.65

76 ホワイトハウス・レポート、前書き p.1.

77 **Joseph Treaster & N.R. Kleinfeld** 「2つの堤防が決壊し、ニューオーリンズに浸水」**The New York Times** **2005年8月31日 p.A1**

78 **Peter Whoriskey & Sam Coates** 「破壊の最中、つかの間の安堵」**The Washington Post** **2005年8月29日 p.A1**

79 ホワイトハウス・レポート 第4章 p.3

80 同上

81 **Marty Bahamonde**、**2005年10月20日**。**Bahamonde**は誰がこの報告をしたか記憶になかった。

82 下院特別委員会報告書 p.142

83 **Mark Schleifstein** 「洪水は悪化するばかり」**The Times-Picayune**、ナショナル・ウェブ版 **2005年8月31日**

84 **Christopher Rhoads** 「カットオフ：危機の中心で、市の職員達は連絡確保に苦闘」**The Wall Street Journal** **2005年9月9日 p.A1**

B

C15-06-1844.0 脚注

page 1

本ケースは *Esther Scott* により作成され、*Taubman Center for State and Local Government* の常任ディレクターである *Arnold Howitt* に提出されたものであり、ハーバード大学ケネディ行政大学院 (*John F. Kennedy School of Government, Harvard University*) での使用を目的としたものである。本ケースの資金は *National Preparedness Leadership Initiative* から提供された。(0606)

Copyright (c) 2006 the President and Fellows of Harvard College。本出版物のいかなる部分も、当該ケースプログラムの文書による許可なしに、再生、改訂、翻訳、検索システムへの保存、表計算ソフトへの使用、あるいはいかなる形態または方法（電子的・機械的・複写・録音・その他）での転送を禁ずる。注文および著作権許可の情報については、当校ホームページ www.ksgcase.harvard.edu にアクセスするか、**Case Program, John F. Kennedy School of Government, Harvard University, 79 John F. Kennedy Street, Cambridge, MA 02138** まで文書で要請すること。

page 2

1 「ハリケーン・カトリーナに対する連邦政府の対応：学び取った教訓」George W. Bush 大統領への報告書（以後ホワイトハウス・レポートと称する）、2006年2月23日、前書き

p.1

2 ニューオーリンズのハリケーン計画の詳しい説明については、本ケース第A部「ニューオーリンズでの『ビッグワン（大災害）』の備え」を参照。

3 「Chertoff: カトリーナのシナリオは存在しなかった」 CNN.com、2005年9月4日

4 *The Times-Picayune*、ウェブ版、2005年8月29日

page 3

5 「ハリケーン・カトリーナ：国の備えはまだ」上院国土安全保障・政府問題委員会の報告書（以下、上院委員会報告書と称する）、2006年5月 第18章 p.5

6 **The Times-Picayune** ウェブ版、2005年8月30日

7 **DHS** ウェブサイトより、上院委員会報告書からの引用 第19章 p.1

8 例えば月曜日昼のテレビ会議で、ルイジアナ州知事 **Kathleen Blanco** は連邦と州の担当者に対して、堤防決壊の報告は「未確認です。この時点では・・・堤防は決壊されていないと思います」と話した。

page 4

9 上院委員会報告書からの引用。第4章 pp.6-7

10 上院委員会報告書、第19章 p.7

11 「**Charlie Melancon** 議員と **William J. Jefferson** 議員を代表とする特別委員会が提出した付加的な見解」 2006年2月15日 pp.27-28

page 5

12 「イニシアティブの欠如」、ハリケーン・カトリーナへの防御と対応策を調査するための超党派特別委員会 (**Select Bipartisan Committee to Investigate the Preparation for and Response to Hurricane Katrina**)の最終報告書 (以後下院特別委員会報告書と称する)、2006年2月15日 p.142、p.141

page 6

13 上院委員会報告書、第15章 pp.4-6 ; 第19章 p.2

14 下院特別委員会報告書 p.132

page 7

15 ホワイトハウス・レポートの記載によると **NRP** は、ある箇所では **DHS** 長官が国家重大事案宣言の責任を有するとし、また別の箇所で、スタフォード条例の下での大統領宣言の全ての緊急事態や災害が、自動的に国家重大事案と認められるとしている。

16 **Joseph Treaster & N.R. Kleinfield** 「2つの堤防が決壊し、ニューオーリンズに浸水」 *The New York Times* 2005年8月31日 p.A1

17 **Dan Shea** 「水没 ; 堤防決壊により湖から川まで街は沈んでいる」 *The*

Times-Picayune 2005年8月31日 p.1

18 下院特別委員会報告書 p.164

19 上院委員会報告書 第18章 p.5

page 8

20 ホワイトハウス・レポート 第4章 p.4

21 **Dan Baum** 「大洪水」 *The New Yorker* 2006年1月9日 pp.54-55

22 **Christopher Rhoads** 「カットオフ：危機の中心で、市の職員達は連絡確保に苦闘」
The Wall Street Journal 2005年9月9日 p.A1

23 同上。スキームは、ハイアットにあった予備電源が頼りだった。

24 **The Times-Picayune** ウェブ版 2006年8月30日

page 9

25 **Shea** 2005年8月31日

26 同上

27 上院委員会報告書 第21章 p.2

28 **The Times-Picayune** ウェブ版 2005年9月7日

29 上院委員会報告書からの引用 第21章 p.1

page 10

30 下院特別委員会報告書 p.69

31 **Michael Chertoff** カトリーナに関する下院特別委員会での陳述。2005年10月19日。**Chertoff**によれば、オペレーションのピーク時には、沿岸警備隊は「カトリーナ対応支援・・・」に関して、65機の航空機/30基のカッター/100隻のボート/約5,000人の要員を擁していた。

32 上院委員会報告書 第 21 章 pp.1-5 救助活動の後半で、FEMA は同市を支援するため、水中訓練の経験を持つ 8 つのチームを集結することができた。FEMA のチームは合計 6,000 余人の救助に関わった。

33 上院委員会によれば、2005 年の「ハリケーン・パム」計画演習（FEMA が主催し、ニューオーリンズ地域での大型ハリケーンへの対応策の開発に焦点を当てた）の間、緊急時担当者たちは、様々なハイウェイ上の回収地点、つまり「リリーパッド」に救出された人々を運ぶ計画を立てていた。その計画では、人々をそこからシェルターに輸送することを提唱していた。

34 Peter Applebome, Christopher Drew, Jere Longman & Andrew Revkin 「脆いバランスは直ぐに壊れ、破壊された街が待っている」 *The New York Times* 2005 年 9 月 4 日 第 1 部 p.1

page 11

35 Shea 2005 年 8 月 31 日

36 下院特別委員会報告書 p.118。同報告書に引用された準備済みステートメントで Nagin は、シェルターの需要が増大したため「もう一つの避難所として、Convention Center を開く必要があった」と述べた。また同報告書の別の箇所で下院特別委員会は、避難者自身が乾いた場所を求めてコンベンションセンターに行き、鍵のかかった同施設に侵入した、と主張した。

37 The Times-Picayune ウェブ版 2005 年 9 月 7 日

page 12

38 Robert Travis Scott 「遅れた Blanco の発言」 The Times-Picayune ウェブ版 2005 年 8 月 30 日

39 DHS スポークスマンによれば、Chertoff も同じ意見だった。彼はこう言った。スーパードームの状況が「悪夢のようだった」にしても、「それは生死にかかわる状況ではなく、我々は出来る限り優先事項に焦点を合わせなければならなかった。」 [Eric Lichtblau 「Chertoff はブリーフィングで攻撃の的となった」 *The New York Times* 2005 年 9 月 8 日 p.A24]

40 上院委員会報告書 第22章 p.4。しかし **Brown** は、2005年9月15日に **The New York Times** 紙とのインタビューで、**Nagin** が「スーパードームからの退去支援より始まる詳細な優先順位リスト」を彼に渡したと述べた。

41 **Scott** 2005年8月30日

42 **Applebome** 他 2005年9月4日

43 上院委員会報告書 第22章 p.5

page 13

44 同上 第22章 p.6

45 下院特別委員会報告書によると、**Brown** が **Blanco** に対して、500台のバスが待機していると述べた、と **Blanco** は断言した。しかし同委員会は、バスが「実際に『待機』していたのか、あるいは **Brown** が **Blanco** に対してその様な発言をしたのか」の「証拠を見つけることは出来なかった。」

46 上院委員会報告書 第22章 p.5。上院委員会報告書は、**Blanco** の要請した500台ではなく、**FEMA** は455台のバスを要請したと述べている。

47 **William Lokey** 下院特別委員会での証言 2005年12月14日

48 上院委員会報告書からの引用 第26章 p.57

49 **David Kirkpatrick & Scott Shane** 「前 **FEMA** 長官がフラストレーションとカオスを語る」 **The New York Times** 2005年9月15日 p.A1。**Brown** が後に下院での証言で説明した通り、災害に関する **FEMA** の長年の確立した手法によれば、「州政府の調整官」と **FEMA** から指名された「連邦政府の調整官」は、「統一された指揮系統で密接に繋がっているべきものであり・・・かれらはオペレーションの中枢である。」

page 14

50 同上

51 下院特別委員会報告書 p.135

page 15

52 **Spencer Hsu** 「連邦政府のカトリーナ対策における当時の混乱を、メッセージが示す」 *The Washington Post* 2005年10月18日 p.A11。FEMA スタッフのEメールも、組織間インシデントマネジメントグループに向かって否定的な態度をあらわにしている。**Brown** の副首席補佐官は次のように書いた。「我々の方を向いて馬鹿な質問で我々の邪魔をしない限りは、勝手にふざけたマネをさせておけばいい。彼らは誰一人として、緊急時管理の手掛りを知らない。」

53 **Michael Brown** 下院特別委員会での宣誓証言 2006年2月11日

page 16

54 **Josh White** 「ブッシュは莫大な救援活動を動員」 *The Washington Post* 2005年9月1日 p.A20

55 **Peter Baker** 「休暇は終わり、危機管理が始まる」 *The Washington Post* 2005年9月1日 p.A1

56 上院委員会報告書 第19章 p.11

57 **James Dao, Joseph Treaster & Felicity Barringer** 「ニューオーリンズは救出を待っている」 *The New York Times* 2005年9月2日 p.15; **Joseph Treaster** 「コンベンションセンターの不潔さと苦境を和らげる第一歩」 *The New York Times* 2005年9月3日 p.16

58 **Marc Sandalow** 「無秩序、怒り、絶望；米国の対応と災害防止の失敗への強い批判」 *The San Francisco Chronicle* 2005年9月2日 p.A1

59 **Joseph Treaster & Deborah Sontag** 「何千人もが不潔な状態に取り残されている中、絶望と無法がニューオーリンズをとらえている」 *The New York Times* 2005年9月2日；**Dao** 他 2005年9月2日。**Compass** は、コンベンションセンターの保護に派遣された8名の警察官チームを暴漢が追い返した、と断言した。

60 **David Carr** 「事実より更に恐ろしく：ニュース報道」 *The New York Times* p.C1。9月6日に **Oprah Winfrey** ショーに出演した **Compass** は、「[スーパードーム]には幼児たちもいたが、その何人かの幼児はレイプされている」と述べた。

- 61 Dao 他 2005 年 9 月 2 日
- 62 Ed Anderson, Michael Perlstein & Robert Travis Scott 「我々は法と秩序の回復に向けて必要なことをしよう」 *The Times-Picayune* 2005 年 9 月 1 日 p.5
- 63 Chip Johnson「警察が暴風雨の悲惨さを更に悪化した」*The San Francisco Chronicle* 2005 年 9 月 9 日 p.B1。後に人口 17,500 名の Gretna の市長は、町には避難者のための食料も水もなかった上に、「住民が危険である」と「ロコミ」とマスコミ報道が町の職員を恐れさせた、と反論し警察を擁護した。[Robert Pierre & Ann Gerhart「地獄絵の報道が救助を遅らせたかも知れない」 *The Washington Post* 2005 年 10 月 5 日 p.A8]
- 64 Robert McFadden & Ralph Blumenthal 「ブッシュは、ニューオーリンズ復旧は長期にわたると見る」 *The New York Times* 2005 年 8 月 31 日 p.A1
- 65 Michael Perlstein 「私は『最悪の事態はこれからだ』と彼らに話した。職員の殆どは殆どアドレナリンだけで頑張っている。」 2005 年 9 月 4 日 p.A2。 *The New York Times* 紙の 9 月 28 日の報道によれば、警察力の内推定 15% (250 名の警察官) が、後に「無断欠勤」で取調べを受けることになる。
- 66 Anderson 他 2005 年 9 月 1 日
- 67 Ann Gerhart 「そして今、我々は地獄にいる」 *The Washington Post* 2005 年 9 月 1 日 p.A1
- 68 Felicity Barringer & Donald McNeil, Jr. 「仮設病院での病と死の不気味なトリアージ」 *The New York Times* 2005 年 9 月 3 日 p.A13
- 69 Sam Coates & Dan Eggen 「絶望と無法の街」 *The Washington Post* 2005 年 9 月 2 日 p.A1。発砲の報告は後に問題となった。ヘリコプターに向かって発砲したとして 9 月 5 日に男性 1 名が逮捕されたが、一方で多数の関係者は、少なくとも発砲の一部は、むしろ救助者に向かって助けを必要とする人々の存在を知らせる意図で行われたとされている、と *The Washington Post* は 10 月 5 日に伝えている。
- 70 Jed Home 「助けて。災害の後、無秩序と無法状態が街を支配」 *The Times-Picayune* 2005 年 9 月 2 日 p.A1

- 71 下院特別委員会報告書 pp.286-287
- 72 同上 p.284
- 73 上院委員会報告書 第24章 p.5
- 74 ABC ニュース *Good Morning America* 2005年9月2日
- 75 Dan Balz 「州指導者達にとっての決定的瞬間」 *The Washington Post* 2005年9月1日 p.A13
- 76 Ann Carrns, Chad Terhune, Kris Hudson & Gary Fields 「打ちのめされて：米国が支援を発動すれば、カトリーナは準備の欠陥を突いてくる」 *The Wall Street Journal* 2005年9月1日 p.A1
- 77 Josh White & Peter Whoriskey 「計画、対策の欠陥が露呈」 *The Washington Post* 2005年9月2日 p.A1
- 78 Susan Glasser & Michael Grunwald 「市の混乱は着実に拡大」 *The Washington Post* 2005年9月11日 p.A1
- 79 下院特別委員会報告書 p.83。しかしながら報告書が指摘している通り、ハリケーン・パム演習を構築したコンサルタントは、運用計画というよりも「ブリッジング・ドキュメント」あるいはロードマップに近い最終プラン（未完）について説明した。
- 80 Carrns 他 2005年9月1日
- 81 *The Times-Picayune* からの引用。ウェブ版。2005年9月2日
- 82 Nicole Gaouette, Alan Miller, Mark Mazzetti, Doyle McManus, Josh Meyer, Kevin Sack 「カトリーナのテストにかけられて」 *Los Angeles Times* 2005年9月11日 p.A1
- 83 *The Times-Picayune* 「大統領への公開書簡」 2005年9月4日 p.A15。社説で、「[FEMA]の全ての職員、特に Michael Brown 長官は、解雇されるべきだ。」と述べた。

- 84 下院特別委員会報告書 p.322
- 85 ホワイトハウス報告書 第4章 p.7
- 86 **Amanda Ripley** 「いかにしてこれが起きたか」 *Times* 2005年9月12日 p.52
- 87 上院委員会報告書 第26章 p.57
- 88 同上 第26章 p.38
- 89 **Scott Shane, Thom Shanker** 「暴風雨が直撃した時、州兵も水浸しだった」 *The New York Times* 2005年9月28日 p.A1
- 90 同上
- 91 上院委員会報告書 第6章 p.51
- 92 同上 第26章 p.46, p.59。後に **Blanco** は、彼女は派遣して欲しい兵の種類を特定しなかったことを認めた。彼女は次のように述べた。「誰も私にその要請をすべきだとは言っていません。私は彼らが持つ全てを要請したと思っています。その時点で私たちは戦争地帯にいました。」 [**Eric Lipton, Eric Schmitt, Thom Shanker** 「政治問題が派兵支援計画を混乱させた」 *The New York Times* 2005年9月9日 p.A1]
- 93 同上 第26章 p.49
- 94 同上 第26章 pp.52-53。上院委員会報告書によると **Landreneau** は、火曜日に **Blum** に支援を要請したと主張するが、**Blum** の記憶では要請は水曜日まで無かった。
- 95 上院委員会報告書の記述によると、**FEMA** は **DOD** に対して「連邦政府軍の具体的なアセットと能力に関する 93 の要求事項を出した」が、ここには「多数の地上部隊」は含まれていなかった。
- 96 上院委員会報告書 第26章 p.51 & 59
- 97 **Karen Tumulty, Brian Bennett** 「知事： **Kathleen Babineaux Blanco** は、連邦支援を得るために最善を尽くしたか」 *Time* 2005年9月19日 p.38；下院特別委員会報告書

p.222。 *Time* によれば、9月1日木曜日に、**Blanco** はチェックリストを用意し、そこに何よりも先ず **40,000** 人の部隊、都市での捜索・救助チーム、バス、移動式死体安置所、飲料水・氷・食料トレーラを入れた。

98 上院委員会報告書 第26章 p.49 & p. 58

99 ミシシッピ州は現役兵連邦政府軍を要請しなかった。従って連邦化の問題はルイジアナ州のみに関係するものであった。

100 上院委員会報告書 第26章 p.64

101 同上 第26章 p.67

102 **Gaouette** 他 2005年9月11日

103 **Horne** 2005年9月2日

104 **Landreneau** によれば、退去は国家警備隊により手配されたと言うが、上院委員会報告書は **Honore** 中將が **Blanco** から退去の手配を要請されて、担当官一人にその任務を委任した、と記載している。

105 「やっと支援が。当局は市の統治を回復」 **The Times-Picayune** 2005年9月4日 p.A1

106 **Barringer, McNeil** 2005年9月3日

107 上院委員会報告書 第26章 p.68。同報告書によれば、連邦部隊は「ドア・ツー・ドアの探索と救助、がれきの撤去、ロジスティクス支援に従事した。」

108 上院委員会報告書 第27章 p.10

109 同上 第27章 p.15

110 ホワイトハウス・レポート 第4章 p.8

111 上院委員会報告書 第27章 p.13

- 112 その後 **Brown** が **PFO** になったことにより、オペレーション的任務の色彩は濃くなり、彼は最終的には **FCO** にも任命された。
- 113 下院特別委員会報告書 p.190
- 114 上院委員会報告書からの引用 第 26 章 p.54
- 115 **Bill Walsh, Robert Travis Scott, Jan Moller** 「ブッシュと **Blanco** は、軍や視察に関して対立」 *The Times-Picayune* 2005 年 9 月 6 日 p.A6。 **Honore** の息子はルイジアナ州国家警備隊隊員として、当時イラクに派兵されていた。
- 116 **Elisabeth Bumiller & Clyde Haberman** 「ブッシュの再訪問」 *The New York Times* 2005 年 9 月 6 日 p.A1
- 117 **Jeff Duncan** 「**Nagin** 市長は楽観的かつ挑戦的」 *The Times-Picayune* 2005 年 9 月 7 日 p.A4
- 118 *The Times-Picayune* ウェブ版 2005 年 9 月 6 日。 **Nagin** は明らかに先のコンピュータシミュレーションで出された数字に言及していた。
- 119 もう 1 名はニューオーリンズ警察署長 **Edwin Compass** であり、彼は 9 月末に辞任した。
- 120 **NBC-TV Meet the Press** 2005 年 9 月 4 日 ; **CNN.com** 2005 年 9 月 4 日
- 121 ハリケーン・パム計画演習では、堤防の越水は想定したが決壊は想定しなかった。
- 122 **CNN.com** 2005 年 9 月 4 日
- 123 **Lipton** 他 2005 年 9 月 9 日